

巻頭言

イエスの御名によって

ミッション・宣教の声 主幹 黒田 禎一郎

「この方以外には、だれによっても救いはありません。」

使徒 4:12

ユダヤの指導者が全員揃って、留置所から二人を引き出し尋問しました。

「あなたがたは何の権威によって、また、だれの名によってこんなことをしたのか。」(使徒4:7) 40 数年間も病んでいた男が、「ナザレ人イエス・キリストの御名」(使徒4:10)によって、癒されたからです。初代教会時代、権威あるイエスの名によって、多くの人が癒されました。そこにはイエス・キリストのご臨在がありました。



神の全権

「建てる者たちが捨てた石が、それが要の石となった。」

(詩篇 118:22)

家を建てる者たち(大祭司、長老、律法学者たち)に捨てられたイエスは、不要人物、いや有害人物、民に悪影響を与える人物でした。彼らに捨てられたイエスこそ、全人類を救うメシアです。確かに、パウロもイエス・キリストこそ、その礎石であると語りました。イエスの名には神の全権が秘められています。

神の全権に従えば、どんな人でも変えられます。この世で捨てられた石が、大切な礎石となりました。これは神の成されたわざであり、実に不思議です。あの「美しの門」の入り口で物乞いしていた男を思い出してください。彼は来る日も来る日も、何かをもらおうという望みをいだき物乞いしていました。しかし、結果は期待以上の祝福でした。ペテロの人生を思い出してください。彼はイエスを知らないとして三度も、のろいをかけて否定した男ではありませんか。一番世話になった主イエスに、背を向けた男ではありませんか。しかし、彼も悔い改めて変えられました。

考えてください。弱かったペテロ(イエスを三度否んだ)が、ユダヤ社会指導者たちの前で大胆にスピーチしました。それが同一人物であるとは、どう考えても一致しません。それは神が与えられた祝福でした。悔い改めて信仰告白したペテロは、大きく変えられました。神のわざは、人の常識と理性を超えるものです。なんといい幸い、祝福ではありませんか。

私たちは神に捨てられても不思議でない、小石のような者ですが、神はその者をお選びくださいました。しかも「私の目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」(イザヤ43:4)と言われます。人は変えられます。どんな人にも希望があります。人の考えと神の計画は大きく違います。神のご計画は、私たちを救い祝福することです。私たちは信仰をもって、神を受け入れているでしょうか。

神の救い

ペテロは、全人類へ神の「救い」を語っています。

「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は、人間に与えられていないからです。」(使徒4:12) まことの救いは十字架にかかり、死んで三日目に復活されたイエス。キリストから来ます。ユダヤの人々、サンヘドリンの議員、使徒たち、その他あらゆる人々の救いは、イエスの御名によります。私たちも然りであり、救いはイエス・キリストから来しました。イエスは、「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ16:15)と命令されました。全世界にキリストの福音が届けられ、人々が救われることは神のお心です。

ところで、イスラエルの内政は混迷を深めるばかり、国会は非常に高い緊張感に包まれています。イスラエルを取り巻く国際情勢も緊張が続く、油断を許せません。ガザからは連日のロケット弾による攻撃、それに対してテロリストへの報復攻撃等。どこから見ても光は見えません。しかし、イスラエルは神が約束の地に立てられた神の国です。神の国でありながらも、まだ多くのイスラエル人は真の救いが不明です。「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。」(ロマ11:25、26)

キリストの福音を語る

「人は変えられる」のです。決して諦めてはいけません。なぜなら、救いは神のわざであるからです。私たちの仕事(務め)は、ただ忠実にお従いするだけです。救いはナザレのイエスの御名にあります。あのペテロが宮で大胆に福音を語ったように、私たちも聖霊の先導によって「キリストの福音」を宣べ伝えようではありませんか。

Networking Jewish Evangelism



P2-3

両者が新しいエルサレムに入る幻

P4

早川 衛

LOP67翻訳の意味

石井田 直二

P5

LCJE 北米カンファレンス2022年3月より

クリンゲンズミス

P6

「LCJE 韓国支部報告」より

P7

ジェイコブ・リー

「ドイツでのユダヤ人伝道」より

アロン・レウイン

P8

お知らせ

事務局より

両者が新しいエルサレムに入る幻

LCJE 日本支部運営委員 早川 衛

イスラエルの神、主の願いは救いを受けたユダヤ人と救いを受けた異邦人の両者が新しいエルサレムに入ることである。



両者が新しいエルサレムに入る時、完全に成就することがある。ヨハネの黙示録 21 章 9 節に書かれた花嫁は教会である。つまり、御使いは黙示録を書いたヨハネに教会を見せる、と言ったのである。それは、ヨハネが、教会の一員であるにも拘わらず、教会の姿を知らなかったことを意味する。しかし、同章 10 節に書かれているとおり、ヨハネが見たものは天から降る新しいエルサレムであり、教会ではなかった。御使いは間違っただろうか。否である。なぜなら、天のエルサレムに神は住み、教会も神の住まいとなる（エペソ 2:22）。つまり、天のエルサレムと教会は、一つとなるからである。黙示録 21 章 12 節に書かれているとおり、天のエルサレムの十二の門にはイスラエルの十二部族の名前が刻まれている。それを見るユダヤ人は主の愛と憐みを覚え感謝し、異邦人は自分たちがイスラエルという神の国の一員となったことを確認し感謝するだろう。

異邦人は、同章 24 ～ 26 節に書かれているとおり、諸国の民の栄光と誉れを携え新しいエルサレムに入るのである。それは、主がアブラハムに言われた「あなたの子孫によって地の全ての国々は祝福を受ける」の完成形である。また、新しい一人の人も完成する。なぜなら、ユダヤ人と異邦人が共に主の部族として（詩 122:4）天のエルサレムに入るからだ。その時、両者は、黙示録 21 章 3 ～ 4 節に書かれたことばを聞き、体験する。3 節のことばは、エレミヤが預言した「新しい契約」条項と一致する（エレミヤ書 31 章 33 節）。すなわち「新しい契約」も完全に成就する。そして「エルサレムの平和」も完全に成就する。平和と訳される「シャローム」

の第一義的意味は「完璧」であり、単に平和を表すものではない。主とその部族（救いを受けたユダ人と異邦人）が、栄光に満ちる天のエルサレムに入り、住むのである。それこそが「完璧」である。

それでは、両者が天のエルサレムに入るために私たちがしなければならないことは何であろうか。両者のための祈りと両者への伝道である。LCJE 日本支部は、イスラエルの救いを祈る。しかし、上述のことから、私たちの意識は両者へ向けられるべきであり、両者に対する伝道が必要である、と言える。ペテロやパウロの意識も両者へ向けられ、彼らは両者へ伝道したのである。

黙示録 21 章に書かれた事柄を見た時から、ヨハネの意識も両者へ向けられたと思料する。「エルサレムの平和のために祈れ」の「祈れ」は、ヘブライ語で Shaal である。その第一義的な意味は、求めるである。求める人は、祈るだけでなく行動するはずだ。救いを受けたユダヤ人と救いを受けた異邦人が天のエルサレムに入る時、「エルサレムの平和」が成就するのである。そのためには両者に対する伝道という行動が必要なのである。

スペインの Sierra 牧師（Centro evangelico vida nueva 教会）のメッセージを聞いた（以下、牧師とする）。



牧師は、昨年、贖罪の日の直前に嘆きの壁に行った。その際、一人のラビが牧師に近づき「あなたはクリスチャンか」と訊ねた。

牧師は答えた。「なぜ、そんな質問をするのですか」。ラビは言った。「あなたに重要なメッセージがあるので。黙示録の中で竜が女を殺そうとする箇所、そして、女が荒野へ逃げる箇所を読んだことがありますか」。牧師は「はい。黙示録 12 章ですね。」と答えた。ラビは言っ

だ「女とは誰ですか」。牧師は答えた。「イスラエルです」。ラビは「very good」と言い、続けて、こう質問した。「イエスの証しを保つ者たちとは誰ですか」。ラビは、牧師が答える前に「それは、あなたがたクリスチャンです」と言った。牧師は質問した。「なぜ、あなたは、イエスや黙示録ということばを使うのすか。周りにいるユダヤ人が、それを聞いたら、あなたは殺されるのではないですか」。ラビはそれに対し「2000年前にもあるマエストロ（イエス）が殺されたではないですか。」と言った。牧師は、ラビに対し興味を抱き質問した。「あなたが持っている重要なメッセージとは何ですか」。ラビは答えた。「教会は来るべきものに対し準備ができていません。準備するように言ってください。教会も迫害されるからです」。牧師は再度言った。「ここにいる大勢のユダヤ人が、あなたの話していることに気づいたら、あなたは追放されるのではないのでしょうか」。ラビは答えた。「ここにいる多くの人は、私が話したことを信じています。あなたが想像するより多くの者が信じているのです。黙っているだけなのです」。そして、続けて言った。「聖書には、イエスが来る前、世界はノアの日と同じようだ、と書いてあります。それを読んだことがありますか。ノアは食べ物を集めました。箱舟の中に食べ物を入れました。洪水の間、ノアとその家族は箱舟の中で、それを食べ、生きました。

今、私たちは、それと同じように荒野のある場所に食糧を蓄え、迫害に備えています。ウクライナの次はイスラエルが迫害されるでしょう。イスラエルは欧州に天然ガスを売るからです。」その後、牧師は、ラビと共に祈り、別れた。そして、その直後、ラビの姿は消えた、と牧師は言うのである。

私は、この証しを信じる。すなわち、今イスラエルの霊的な状況は、急激に変化している。時が近づいているのである。だからこそ、私たちは、両者のために祈り、両者に伝道すべきである。それは、両者が救われ、天のエルサレムに入るための必須事項である。そのため、私は、昨年7月から戸別訪問伝道を始め、数ヶ月前から他の牧師が行なう路傍伝道にも加わった。つい先日、川越駅前で伝道していた際、喜びながら近づいて来た外国人の青年がいた。彼はユダヤ人ビリーバーであった。それもイスラエルの霊的な状況が急激に変化していることを証しするもののひとつである。

しかし、聖霊が働かなければ、私たちは何も悟れず、何もすることができない。だから、今、両者のために祈り、両者に伝道しようとする者は、聖霊を求めなければならない。

イスラエルの歌 1・2・3

サムエル企画様が「CD」化しておられます。それだけではなく、伴奏音源（カラオケ）も作成していただきました。是非この機会にご購入いただき、また、友人知人にもお知らせいただけたらと願っております。（LCJE 割引価格が用意されています。お問い合わせ 075 - 813-7873 まで）



内 容	金 額	注文件数における特典
全 6 枚・税・送料込み 全 50 曲 CD6 枚 (歌入り 3 枚・カラオケ 3 枚)	10,420 円	5 セット以上の場合、送料無料。 金額も 50,400 円とお得。
歌入り全 50 曲 3 枚組 CD1 CD2 CD3	各 2,300 円	
伴奏全 50 曲 3 枚組 CD1 CD2 CD3	各 1,400 円	歌いやすく、ガイド入り

「イスラエルの歌 CD」申し込みは以下の手順でお願いします。

販売制作：サムエル企画 代表：鳥谷部 裕之 住所：京都市右京区太秦安井馬塚 6-4
電話・ファックス：075-813-7873 電子メール：samuelplanning@yahoo.co.jp

LOP67翻訳の意味

LCJE 日本支部運営委員 石井田 直二

LCJEの世界ネットワークが不定期で作成しているユダヤ人伝道報告書、LOP67の日本語訳が田中身利と子姉の協力により完了しました。本書はA4判で60頁以上あり、世界各地で行われているユダヤ人伝道の最前線の情報を得られる貴重な資料です。旧版のLOP60（2004年発表、2006年に故近藤宏子姉が和訳）と比較しながら、新版の特徴をご紹介します。

全体の構成は5章

本書は、短い前文「はじめに」のあと、1章がユダヤ人伝道の歴史、2章がユダヤ人コミュニティとユダヤ人伝道、3章が神学的考察とユダヤ人伝道、4章がユダヤ人伝道に対する10の反論への応答、5章がユダヤ人伝道における戦略と実践となっています。

旧版も同じ5章構成でしたが、1章が「神のユダヤ人との契約とユダヤ人伝道」で、ユダヤ人に伝道することの必要性に関する議論から始まっていました。しかし、新版はユダヤ人伝道の歴史から始まっています。初代教会が、まずユダヤ人を対象にして伝道を開始したことから始めて、現在に至るまでのユダヤ人伝道の歴史、メシアニック運動の発展などを論じています。

日本では「ユダヤ人への伝道は、今は不可能だ」と考える人が多いですが、そんなことはありません。欧米には百年を超える歴史を持つユダヤ人伝道団体もあり、大きな成果をあげていたのです。

メシアニック運動

旧版はメシアニック運動の正統性や特徴、課題に関する議論に1つの章が使われていましたが、新版は特別な章がありません。これは、メシアニック運動の正統性が多くの人に認められ、もはや議論の余地が無くなったためだと思われます。

今や、ユダヤ人伝道に関わる人で、メシアニック運動を知らない人はいません。また、一般のユダヤ人の中でも、メシアニック運動の存在はよく知られるようになりました。宣教団体のスタッフも、メシアニック・ジューの割合が、この十数年間で大幅に増えています。もはや、メシアニック・ジュー運動とユダヤ人伝道は、不可分になっています。

最近では「ユダヤ人伝道はメシアニック・ジューがするもので、異邦人クリスチャンには無理」という、逆方向の誤解が問題になりつつあります。新版LOPは、4章のユダヤ人伝道に対する10の反論への応答で、この問題を論じています。

ユダヤ人のキリスト教理解

旧版では、かなり詳しく論じられていた「宗教対話の申し出は宣教妨害」という論点は、新版ではトーンダウンしています。旧版は、ユダヤ人側からキリスト教を容認、もしくは肯定的に評価する「ダブル・エメット」などの

声明が出されたすぐ後の時期に発表され、警戒する空気が強くありました。

また、新旧版ともに論点にはなっていませんが、近年ではユダヤ人の知識人の間で、イエス・キリストを「良いラビ」として評価する動きが加速しています。「ラビとして評価」「メシアとして信じる」の間には溝がありますが、「イエスはユダヤ人の敵」という過去の常識に比べれば良い方向への変化だと言えます。こうした動きは「いちじくの枝がやわらかに」（マタイ 24:32）なるといふ預言の成就かもしれません。

多数の実践例を紹介

新旧版ともに、多くの紙数を費やしているのは、世界各地の多様なユダヤ人コミュニティに対する具体的な伝道の事例報告です。特に、新版に何度も出てくるのが離婚と価値観の多様化によりユダヤ性を失いつつある欧米のユダヤ人の実情です。2022年秋号でご紹介したカスバリセンターの調査報告では「ユダヤ人」に関する定義が、かなり詳しく論じられていましたが、本書はその点にはふれていません。魂の救済という観点から見れば、厳密な定義は必要ないためだと思われます。

ユダヤ人は「2人いれば3つの意見が出る」と言われるほどに多様性に富んでいます。ですから旧版も新版も共に、相手に合わせた宣教アプローチの重要性を強調しています。「ユダヤ人だから」と一定の公式を適用する方法は、通用しません。相手の特性を見極め、臨機応変に対応する必要があるようです。

日本でのユダヤ人伝道へ

コロナ鎖国が終わり、多くのユダヤ人観光客が再び日本を訪れています。彼らへの宣教のためにも、本書は役立つと思われます。

本書の事例の大半はユダヤ人が定住する地域での宣教活動ですが、旅行者への伝道の例もいくつか取り上げられています。旅行者は国を離れて、気分的にも新しいものを受け入れやすい状態にあり、伝道の機会となります。また、欧米においては筆舌に尽くし難いユダヤ人迫害の歴史が、伝道の大きな障害ですが、日本はひどいユダヤ人迫害が無かったため、その点ではハードルが低いと言えます。旅行者を迎える各地のミニストリー（団体や個人）が連携することで、新たな機会が生まれるでしょう。

また、本書が詳述する定住ユダヤ人に対するアプローチも参考になります。日本には数千人のユダヤ人が定住しています。

彼らに日本で福音を伝える活動も、実現の可能性はあると強く思われました。それは簡単なことではありませんが、昨年にデイビッド・トゥルーベック師が語られた「ローマ 1:16 に従い、日本でユダヤ人に福音が伝えられるなら、日本宣教も前進するでしょう」という。

アメリカの福音派の若い世代と国家イスラエル—理解と支持の危機 ミッチ・グレイザーとリッチ・ヘイスティングス

要約: クリンゲンスミス

翻訳 石黒 イサク

(編集者注: チョウズンピープル・ミニストリーズのミッチ・グレイザー博士と彼の同僚のリッチ・ヘイスティングスは、アメリカの福音派に属する若者世代の、イスラエルに対する理解や対応に関する調査を行い、その動向を紹介してくださいました。さまざまな調査機関、研究機関によって行われた調査を集約すると、イスラエルへの支持と理解が若い世代の間で低下していることを示しています。以下にダイジェスト形式で、彼らのプレゼンテーションの重要な部分の要約をお届けいたします。)

私たちは、アメリカの若い世代の“イスラエル”理解の欠如について、以下の重要な点を指摘したいと思います。

福音派の若者たちが、正しいイスラエル理解を持っていなければ、ユダヤ人に福音を語り告げる可能性は低くなります。この理解の欠如の背後にあるのは、一方で福音派の諸教会で、聖書の堅実な教えがなされなくなっていることと、他方では若者たちが、主にソーシャルメディアから、薄っぺらな情報を得る傾向が高まっていることにあります。

教会に関して言えば、牧師が旧約聖書と主イエスのユダヤ人性などを、説教で語らなくなれば、ユダヤ人に対する教会とパラチャーチ組織の宣教や働きは、今後 10 年間で消え去ってしまうでしょう。

私たちの聖書学校や神学校が、イエスのユダヤ人性について学生に教えなかったり、旧約聖書の研究を新約聖書の研究と同等に強調したりできない場合、この衰退はさらに悪化します。したがって、若い福音派は年をとるにつれて、ますます置換神学を受け入れるようになってしまいます。

多くの調査結果から見ると、アメリカの福音派の若者たちはイスラエルに対する態度に関するほとんどの情報を、友人たちやデジタルメディアや SNS から得ていることが明らかになりました。多くの場合、その情報はイスラエルについて不正確であり、または批判的なものがあります。これはまた、聖書の基本的な説教が重要視されないで、Twitter や Facebook、その他の SNS 上の、一時的・刹那的情報との競争に負けていることを示唆しています。

しかし、アメリカの若い福音派は必ずしも反ユダヤ主義になっているわけではなく、むしろアメリカの社会的衰退の問題がイスラエルに関する問題よりも彼らにとって重要になっていることを覚えておくことが重要です。イスラエルに対する支持・理解の低下は、イスラエルとユダヤ人についての知識の欠如から来ています。

したがって、現在の熟年世代のアメリカの福音派牧師、教師、および一般の指導者は、ユダヤ人への懸念とイス

ラエル国への懸念を次の世代に引き継ぐために、次の行動をとる必要があると考えます。

1. 私たちは世代間の世界観の違いを認識し、若い世代にとってイスラエル理解の重要性を教え、福音派の教会の子供たちに影響を与え始める方法を、新たに模索する必要があります。私たちは教会の日曜学校のクラスや青年グループのために、イスラエルについて、ユダヤ人について、ユダヤ人の伝道についての良い教材を開発する必要があります。1948 年以降、マスメディアの報道からイスラエルの発展について、イスラエルの英雄的な闘争などの知識を得られた、彼らの両親や祖父母とは違って、現代の若者たちが同様の情報を得られることは、もはや期待できないからです。それらの重要な出来事は、今日にはもう忘れられた歴史になってしまっているのです。
2. 私たちのようなユダヤ人宣教団体などが、聖書学校や神学校などにおいて、継続的に存在を紹介したり、働きを教えたりすることを確認する必要があります。ただ単に人々を私たちの活動に招待するだけでは足りないのです。教会の働きやミニストリーの準備をしている次世代を教えるために、私たち自身のスタッフまたは関連スタッフなどの専任教師が必要です。また福音派の伝道会議や大規模な集会などにおいて、イスラエルやユダヤ人に対する関係が薄れつつある指導層に対して、より大きな存在感を確立し、この問題の重要性をアピールする必要があります。
3. アメリカの現在の政治状況がイスラエルに対する若い福音派の態度にどのように影響するかを考慮する必要があります。私たちの次の世代が、イスラエルに対する福音派の前世代と同じ政治的見解を持つことはないでしょう。私たちは過去の福音派が持つ社会的および文化的政治的立場から距離を置き、聖書の土台、基本的立場にもう一度焦点を合わせる必要があります。私たちはまた、ガザ地区とヨルダン川西岸地区でのイスラエルの防衛行動に関する多くの虚偽情報に対して、注意深く合理的に、誠実な反応を提示する必要があります。イスラエルに関する SNS 上の誤った非難は、しばしば若者によって信じられ、イスラエルだけでなく、ユダヤ人やユダヤ人の伝道に対する彼らの態度に悪影響を及ぼすからです。私たちは世代間の違いを乗り越えるために、イスラエルについて知的で冷静な討論をする方法を築く必要があります。

「LCJE韓国支部報告」より

2月27日オンライン祈り会

LCJE韓国支部コーディネイター ジェイコブ・リー

要約：石井田 直二



LCJEを通じて韓国で行われている神の御業について報告できるのは光栄です。韓国の支部が設立されたのは2016年で、日本よりはるかに短い期間しか活動していません。

LCJE韓国支部としての活動

私と共に韓国支部の活動を支えて下さっているのが、ダニエル・ブー師（ポドナム教会牧師）です。LCJEはローザンヌ運動の傘下にあるので、私たちは韓国ローザンヌ委員会の様々な活動に参加しています。韓国ではローザンヌ教職者会議が定期的に行われており、その第3回が昨年の10月下旬に行われました。約300人の参加者があり、ブー師と私はLCJEの活動について紹介することができました。

このような集会では、分科会などで自己紹介の時間があるので、LCJEの説明をすると「ローザンヌ運動にもユダヤ人伝道部門があるんですね」と驚かれることもあります。また、韓国のローザンヌ運動のリーダーの一人が、LCJE韓国支部のメンバーなので、とても宣伝がしやすいのです。

皆様は、2024年9月22-28日 韓国仁川ソンド・コンベンシアで第4回ローザンヌ世界宣教会議が開催されるのをご存じかと思います。多くのキリスト教リーダーが集まる重要な会議なので、LCJE韓国支部としても積極的に取り組んでいます。

すでに、準備のための昼食ミーティングでプレゼンも行いました。ローザンヌ運動指導者のマイケル・オー師は、名古屋の教会の牧師ですし、もう一人の会議責任者としてオンヌリ教会のイ・ジェフン師が立てられています。日本のLCJEからも、ぜひとも代表を送り込んでください。私たちは世界のLCJEやアジア諸国の皆さんとも共に歩みたいと考えています。昨年にオンライン開催されたLCJE東アジア・ユダヤ人伝道カンファレンス2022には、私たちも参加させていただきました。また、LCJE国際オンライン祈り会にも参加しており、今年8月13-18日にポーランドで開催されるLCJE世界大会にも参加予定です。

その他、昨年11月15日にはLCJE韓国支部としてのセミナーも開催し、ドイツでメシアニック・コングリゲーションを導いておられるエドワード・キム師を講師にお迎えいたしました。

他の団体との共同活動

私はトーチ・トリニティ神学校（オンヌリ教会の傘下に

ある神学校）で博士号を取りました。同神学校は、ローザンヌ運動を神学校の基本ビジョンとしているので、LCJEとの親和性は高いはずなのですが、それでも校内でイスラエル祈禱会を立ち上げた時は、ほとんど理解者がいませんでした。それでも、辛抱強く続けるうちに今では参加者も増え、卒業生と共に毎週祈り会を開催できています。そして、この祈り会は、学校に公式クラブとして認められました。それは、他の神学校にもチャレンジを与えています。

そして、LCJE韓国支部は、昨年2月にイスラエルセミナーを開催し、そのセミナーはトーチ神学校の単位として認めていただきました。これはすばらしいことです。また、韓国には親イスラエルのクリスチャンTVである「ブラッドTV」というインターネット放送局があり、13万人のチャンネル登録者がいます。この放送局では、イスラエルの政治情報だけでなく、ユダヤ人伝道やメシアニック・ジューの情報、神学セミナーも放映しています。また、イスラエルのメシアニック・ジューがトーチ・トリニティ神学校で学ぶ場合には、奨学金を出すという制度がありますが、残念ながらまだ利用者がありません。

そのほか、親イスラエルの活動である、韓国ギャザリングや、マオズ・イスラエル韓国支部などとも連携して広報活動を行っています。

イスラエルの「家の教会」を支援

まだ韓国LCJEが設立されていなかった2015年、エルサレムで開催された第10回のLCJE国際会議に参加したイム・ドヒュン師が、韓国の教会がイスラエルの家の教会に資金協力を行うというビジョンを受け取りました。当時から、多くの韓国人が宣教を目指してイスラエルに滞在していたのですが、それぞれバラバラに活動しており、支援も不足していたのです。そして、イスラエルには多くのメシアニック・コングリゲーションが生まれていましたが、「家の教会」（ホーム・グループ）はほとんど外国からの支援を受けられなかったのです。

そこで、イム師は組織的に家の教会を支援することを考えたのです。昨年末時点では、30都市の100集会を支援しています。支援対象の集会は増加しており、昨年だけで26集会が増えました。現在支援中の100の集会の合計メンバー数は、約3千人に達しています。

私たちは、各集会に毎月500ドル、年間6千ドルを支援していますので、昨年は合計60万ドルを支援しました。単にお金を送金するだけでなく、現地スタッフが様々な面でサポートを行っています。

最初に申し上げましたが、LCJE韓国支部は設立7年で、まだ活動が始まったばかりです。アジアの国際会議を開催しておられるLCJE日本支部の皆様から学びつつ、一緒に歩んで行きたいと考えていますので、どうぞ私たちのためにお祈りください。

1月31日オンライン祈り会

ジューズ・フォー・ジーザス・ドイツ支部長 アロン・レウイン

要約：石井田 直二



私はイスラエルで生まれ、ギリシャと英国で育ち、ブタペストでジューズ・フォー・ジーザスの活動に加わり、ベルリンに来ました。ベルリンはホロコーストの震源地となった場所です。ユダヤ人虐殺の計画を決めた「ヴァンゼー会議」が行われた場所も、近くにありますが、

ベルリンには戦前に多くのユダヤ人が住んでいましたが、95%は殺され、現在はほとんど残っていません。しかし、ベルリンには今、約5万人のユダヤ人が住んでいます。そのうち約3万人は、旧ソ連地区から来たロシア語を話す人々です。ドイツ政府は、ホロコーストの反省から、ユダヤ人を保護する政策をとったため、鉄のカーテン崩壊後に多くのユダヤ人が来ました。

ベルリンに来るイスラエル人

そして残りの2万人はイスラエル人です。彼らが、ベルリンに来る理由は様々です。テロや戦争が続くイスラエルの現実がいやになった人々もいますし。宗教に反発して国を脱出した超正統派出身の人々もいます。

物価が安いことも、イスラエル人にとっては魅力です。数年前、イスラエルで人気のお菓子が、ベルリンでは10分の1の価格で販売されているとSNSに投稿され、大きな話題になりました。また、LGBTQの人々もたくさんやって来ます。そして、新たな機会を求め、良い暮らしをしたいという、積極的な動機でベルリンに来る人々もいます。

彼らはイスラエルにいる友人たちに「ベルリンにアリヤーしよう」と呼びかけます。彼らにとって「約束の地」は、ベルリンなのです。ですから、ホロコースト生存者など、過去の歴史を知るイスラエルの人々は、彼らの動きを苦々しく思っています。

ユダヤ人に福音を伝える活動

私がベルリンに移住してユダヤ人伝道を始めたのは2016年です。すでに活動を開始していた、フィンランド系の宣教団体や、チョーズン・ピープル・ミニストリーズなどと協力して活動を始めました。

私たちが毎月、協力して行っているのは「イート&トーク」という活動です。それは金曜夜のシャバットの食事です。最初に宣教スタッフが「人生の意味」、「自由とは何か」など末信者向けの短いメッセージを語り、そのあとで、自由に語り合います。イスラエル人は話し好きで、多くの人が継続出席しており、コミュニティが出来ています。

LGBTQの人々も、数多く参加しています。私たちは彼らのライフスタイルには同意できませんが、彼らを歓迎し、様々な支援を与えています。ある同性愛者の男性

は、「あなたがたは私と意見が合わなくても、私に親切にしてくれた。だからあなたがたの意見も聞こう」と言いました。彼らは私たちの言葉ではなく、行動を見ているのです。

新約聖書に驚くイスラエル人たち

最近、新約聖書の学び会も始めました。参加者はたいてい5人ほどですが、彼らはみな新約聖書を初めて読む人々ばかりです。参加者の一人は「イスラエルの学校では、イエスは新宗教を始めたかと教わってきたが、そうではないことがわかった」と言いました。マタイによる福音書を最初から学んでいるのですが、イエスが「律法を廃止するためではなく、完成するために来た」などの箇所を読んだからです。これは、彼らにとっては大発見で、目が開かれる体験だったようです。ユダヤ人は新約聖書が「敵であるキリスト教の経典」だと考え、読もうとしませんが、何らかのきっかけで読んだら、すぐに理解できるのです。

ベルリンに来るイスラエル人が最も必要としているのは、「共同体」つまり仲間です。そこで、私たちは「カル・ベルリン」、つまりベルリン生活を楽にするという働きを始める予定です。それはイスラエル人に「仕える」働きで、ドイツ文化の説明、諸手続きのサポート、寒い冬や暑い夏の生活をどうするかなど、様々な相談を受付ける計画です。いろいろ手伝ううちに、福音について話す機会が与えられるでしょう。

ベルリンの霊的重要性

史上最悪のユダヤ人迫害が始まり、ほとんどユダヤ人がいなくなったベルリンに、再びユダヤ人が帰ってきていることは、ある意味では神の忠実性の証です。

しかし、せっかく約束の地に帰ったのに、またもやベルリンに離散するのは、神のご計画に反します。彼らは、退廃的、ヘレニズム的な文化にあこがれてほかの民のように（Iサムエル 8:20）なりたいたいと考えます。彼らが「諸国民の光」になるという、預言的な召しを受け止められるようにと、私たちは祈っています。

また、私たちはドイツの教会にもチャレンジを与えています。大半のドイツの教会は、ナチスの時代の過ちを悔い改めていません。そればかりか、ユダヤ人から「宣教は霊的ホロコースト」だと言われるのを恐れ、ユダヤ人伝道には消極的で、メシアニック・ジューとも関係を持つとしません。

というわけで、ベルリンには5万人のユダヤ人がいるのに、宣教スタッフは、すべてのユダヤ人伝道団体を合計しても、たった8人です。でも、畑は色づいています。どうか、私たちのために祈り下さい。

※ジューズ・フォー・ジーザスは、1973年にモイシェ・ローゼンによって設立された世界最大規模のユダヤ人団体で、12か国で活動しています。

LCJEは、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場・活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJEとして支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断してくださいますよう、お願いいたします。

（2023年度祈り会予定）

場 所	6月	7月	8月	9月	会 場
大阪 (6:30より)	8日	8日	10日	14日	北浜スクエア (VIP関西センター8F)
東京 (1:30より)	10日	13日	12日	9日	御茶ノ水クリスチャンセンター

【大阪祈り会にご参加される方へ】第二木曜日午後 6 時半開始です。

【東京祈り会にご参加される方へ】ご注意ください▶通常祈り会の会場は、811号室ですが、変更される場合があります。階下の掲示板をご覧ください。

LCJE オンライン集会

大阪・東京の祈り会に加えて、オンラインでの祈禱会を月1回（第四火曜日夜刻）開催しています。パソコン、タブレット、スマホのいずれでも参加いただけます。参加希望の方は、前日までに naoji@zion-jpn.or.jp (石井田) までメールでお申込み下さい。

2023年11月にチョーズン・ピープル・ミニストリーズ (CPM) から 3人のすばらしいメシアニック・ジュー講師が一挙来日！



トゥルーベック師

ヒルシュ師

グレイザー師

公開セミナー予定 (会場と時間は次号で紹介)
東京 11月3日 (金・祝) 午前・午後
大阪 11月6日 (月) 午後・夜

ミッチ・グレイザー師は、50年以上にわたり CPM の活動に関わって来られた超ベテランで、現在は CPM のトップ。フラードン学校、ムーディー聖書学院などでも講義されました。アジア諸国歴訪の中で、日本を初訪問されます。

ローレンス・ヒルシュ師は、オーストラリアのセレブレイト・メサイアの代表で、昨年には LCJE 日本支部オンライン祈り会で、すばらしいメッセージを語って下さいました。セレブレイト・メサイアは CPM の傘下で活動しています。

デイビッド・トゥルーベック師は、2017 年以来、何度も来日されており、CPM 日本支部の立ち上げに全力投球中です。

すばらしい講師が揃う、祝福に満ちた集会になると期待しています。ぜひご参加ください。最新情報は、LCJE 日本支部 HP でご確認ください。

LCJE日本支部 2023年5月度会計

収入・献金		支出・現金	
科 目	金 額	科 目	金 額
献 金	35,000	事 務 費	15,800
大阪祈り会席上献金	7,000	NEWSレター製作費	0
		郵 送 費	0
		郵便振替手数料	3,800
		通 信 費	3,000
		賃 借 ・ 管 理 費	22,000
		高 熱 費 ・ 共 益 費	12,728
		交 通 旅 費	5,000
		祈 り 会 経 費	3,000
合 計	42,000	合 計	64,608
		差 引 残 高	-22,608
前月よりの繰越	748,054	次 月 繰 越 金	725,446

事務局よりのお知らせ

LCJE 日本支部では、皆様からの御投稿をお待ちしています。インターネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いずれも大歓迎いたします。

文字数は 2000 文字前後、投稿記事は郵送か、
LCJEJAPAN@HOTMAIL.COM 又は
FAX 072-867-6721 まで。宜しくお願い致します。

編集後記

コ・ワーカーの皆様、LCJE 日本支部を覚え篤くお祈りくださり感謝いたします。今月号も興味深い素晴らしい内容の記事が翻訳され読むことが出来ます。

LOP67 の翻訳作業も整い、間もなくご紹介できる幸いを主に感謝いたします。激動の時代ではありますが、今年も多くのユダヤ人が主とお出会いし救い主を受け入れ、救われまう様にお祈りください。心注いでイスラエルの平和を執り成しお祈りいたしましょう。コ・ワーカー一人一人に主の豊かな祝福がありますように。

シャローム

LCJE 日本支部事務局長 高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝